

アメリカ穀物協会が2015年のトウモロコシ生産関連ビデオシリーズの第1弾を公開—作付進捗に焦点

2015年のトウモロコシ生育期の経時的なビデオの最初の3篇がオンラインで公開されています。それらのビデオは、アイオワ州、ミネソタ州、テキサス州での作付状況をハイライトしています。

これらのビデオは右のアドレスでご覧になれます <http://tinyurl.com/plant15>

2015年のトウモロコシ生育期は、コーンベルト全体に広がった低温の影響で遅れた作付で始まりました。

テキサス州の農家チャド・ウェツェル氏は「トウモロコシの作付は例年通りに行きませんでした。5月にはまだトウモロコシはくるぶしの高さにしか成長していなく、実際に作付は1か月遅れてしまいました」と述べています。

多くの米国の農家にとって、平年より遅れてトウモロコシの作付が行われましたが、6月1日までは、ほぼすべての作付を終えることができました。また、これらの遅れにかかわらず、7月10日の米国農務省の需給予測報告では、2015年の米国産トウモロコシは3億4,300万トン（135億ブッシェル）という豊作を見込んでいます。

その一因は遺伝子組み換えトウモロコシにあります。遺伝子組み換えトウモロコシは米国でのトウモロコシの生育期を短縮し、単収増加をもたらしています。

ミネソタ中の農家、ゲリー・ピューラス氏は、「単収は劇的に増加し、特に生育初期の遺伝的性質がそれに寄与しています。30年前と比較すると単収は30から40ブッシェル増加しています」と述べています。


アイオワ州の農家、カート・ホラ氏も、「主に遺伝子組み換えトウモロコシを生産しています。私たちが購入している遺伝子組み換えトウモロコシの持つ、育てているトウモロコシを害虫や病害から守る性質を利用して、除草剤や殺虫剤の使用を抑えることができるのです」と、種子技術の改良により、米国の農家の天候などの外的要因への対応が改善されてきていると述べています。


農家は天候の影響を最小限にしようとしています、それでも最大の単収を得られるかどうかのカギとなるのは天候です。


夏の後半に公開するこのビデオシリーズの続編では、今回登場した農家でのトウモロコシの生育状況をご覧ください。■

U.S. Grains Council

Email: grains@grains.org
www.grains.org

 @usgc

 /usgrainscouncil

 /usgrainscouncil

U.S. Headquarters

20 F Street NW
Suite 600
Washington, D.C. 20001
207.789.0789 TEL
202.898.0522 FAX

アメリカ穀物協会 日本事務所

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1-2-20
第3虎の門電気ビル11階
TEL: 03-6206-1041
FAX: 03-6205-4960

Developing
Markets.

Enabling
Trade.

Improving
Lives.